



2016年3月25日

各 位

会社名 イオン九州株式会社
 代表者名 代表取締役社長 柴田 祐司
 (コード番号：2653 JASDAQ)
 問合せ先 取締役経営戦略本部長 榊 隆之
 (電話番号 092-441-0611)

当社の親会社名 イオン株式会社
 代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
 (コード番号：8267 東証第1部)

業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、2016年2月期決算におきまして、下記のとおり業績予想をお知らせするとともに、特別損失を計上することといたしましたので、お知らせいたします。

1. 2016年2月期 通期業績予想の修正について (2015年3月1日～2016年2月29日)

| | 営業収益 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-----------------|---------|--------|--------|--------|----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回予想 (A) | 242,800 | ▲750 | ▲400 | ▲2,000 | ▲106.44 |
| 今回修正 (B) | 240,000 | ▲190 | ▲30 | ▲2,000 | ▲106.44 |
| 増減額 (B-A) | ▲2,800 | 560 | 370 | 0 | |
| 増減率 | ▲1.2% | — | — | — | |
| 【ご参考】 前年同期実績 | 242,164 | ▲1,693 | ▲1,106 | ▲3,608 | ▲192.21 |

・修正の理由

前回業績予想に比べ、営業収益は28億円減の見込みであります。衣料品は、通期で売上が伸び悩みましたが、食料品は、地域ならではのこだわり商品や、イオンのグローバルな商品調達力を活用した品揃えを強化した結果、既存店の売上は前年を超過いたしました。会社合計の下半期(2015年9月～2016年2月)の既存店売上高は、前年同期比100.0%となりました。

利益面では、HC事業や総合小売事業の住居余暇商品において、商品在庫の計画的な削減を行うとともに、食料品では地域に根差した商品構成への見直し、利益率の高い生鮮食料品の売上構成比を高める等の取組みを行った結果、売上総利益率は改善する見込みです。加えてコスト改善の取組みを進めた結果、営業利益、経常利益については予想を上回る見込みであります。

2. 特別損失の計上について

固定資産の減損に係る会計基準に従い、店舗の減損損失として10億96百万円を特別損失に計上いたします。

※ 上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上